

「御礼 品性を高める」

神 示

神示「真理」を学び

神の手の中 「心」^{運命}預けて歩みし^{今年も}

信者の人生は 「教え」に気付きを得て

実体を高めている

神魂を心に感じて歩む人生は

一つ一つの出会いに気付きが多く

「運命」^{にちぢ}に導かれた日々が送れる

奇跡の中で 守りも大きい

信者に問う

ことしの課題に取り組み 迎えた年末神月

成果はいかに

家族で「教え」を学び

「真理」で関わることでできたであろうか

課題の成果が上がるほど

我が家^{家庭}の姿は 明るく 楽しく

心休まる場^{環境}と成る

病気 事故・災難を遠ざけ

六つの花びらが咲く家庭と生^なってゆく

「人生」を守り 生きがい多いものとするすべは

「正道」を知って歩む以外にない

神が供丸光を通して世^{社会}に示す「教え」を学び

気付きを得て 「実体」を修正する

心正しい「信者の道」 その姿が ここにある

「希望の光」^{みち}が通るほど 「運命」の力が引き出され

「人生」は神の手の中 守られて行く

神の教えを学び、祈願とともに実践に努めた一年の歩みは、実体を高める確かな歩みとなっています。日々の生活に起きるさまざまな事象も、教えを心の軸に据えていれば、そこから必ず気付きにつながり、成長の糧にできるのです。

神魂を心に感じて歩む人生は、一つ一つの出会いに何の無駄もありません。一見災いのようにも、吉へと返ります。全てが有効に働いて、自分の生き方が高くなります。

そして、神から与えられた運命に重なる人生が送れるようになっていきます。心の動きが正しく導かれ、奇跡の中で守りも大きい毎日が送れるのです。

新たな年へと歩みを進めるに当たり、一年間、教えを基に努力を重ね、年末を迎えて、その成果はどうでしょうか。家族で教えを学び、支え合い、補い合い、心の通う家庭とできたでしょうか。

神が示されるのは、その時に必要な指導です。ことしこそ、教えを家族で学び、実践に移すことができたかと、神は

問い掛けられています。

今必要だからこそ表された教えは、すぐに実践するほど成果となります。家の中が明るくなり、毎日が楽しく、家族の心が休まる場となったはずです。

そこには、病気や事故なども寄せ付けず、仕合せの六つの花びらが咲きそろう家庭となります。神が「生^なる」と示されるように、今咲きそろわずとも、土台をつくれれば、続く心の道に生まれ変わったときに、それがありません。希望の光^{みち}を歩む人生であれば、必ず開運し、真実の光という永遠の救いにつながるのです。

人生を生きがい多いものとするには、人としての正道を歩む以外ありません。正道とは、与えられた運命に沿って生きられるように、道を守って暮らすことです。分、立場を踏まえて生きるのです。

神が今、使者を通して表される神示に触れ、気付きを深めて、実体を修正していきましょう。それが正しい信者の道であり、それを毎年繰り返すことで、品性が高まり、人生は磨かれていくのです。

「御礼 品性を高める」

神 示

「教え」に気付きを得て

「真理」を心の支えに「生きる」人は皆^{人間}

「希望の光」に心救われ

生きがいある人生を手に行ける

信者に申す

「教え」を学び 「実体」を高める努力ができていようか

この努力が 「希望の光」を通し

神に「心」預ける思いを強くする

神を見詰める心が身に付くほど 心の動きは安定し

「正道」をゆく人と成る

有限の時を生きる人間は

「心の道」に因を残して往生する

神に礼を尽くし 節度ある人生を歩むことで

大往生できる

神が信者に求める礼の心とは

「真理」に悟りを深め

我が家の「心の道」に良き因を残す人生の姿

人生の良き因 その姿は 「教え」に生きる努力が生む

家族で「教え」を学び 「真理」で関わる心が

自然と運命を磨き 良き因を残して行く

人生は 一人で歩むものではない

家族・縁者 友人・知人との出会いを

重ね 生かし合うことで

良き人生が生まれてゆく

礼の心が ここで身に付く

神の教えからさまざまに気付いて、道理に沿って生きる人は、神魂のご守護の中、必ず希望の光が通ります。品性が高まり、実体の修正ができません。そこに、自身の運命の力が引き出され、生きがいにあふれた人生が手にできるのです。

一年を締めくくるに当たり、実体を高める努力が十分できたかを見詰め直すように、神は促されています。そうした努力が、希望の光を確実に通し、神魂に人生を預けて生きる思いを強くさせます。神の教えが身に付くほど、神魂を心に感じ、正しく生きようとする思いが持てるものです。そして、心の動きが安定して、自然と運命に重なる人生、正道を歩む人となっていきます。

人生は、誰もが有限です。この貴重な時に、心の道に良い因を残す心遣いが必要です。子に、孫に、そして自分の次の人生に、より良いものが残せたなら、今生に悔いのない往生が迎えられるます。加えて、生きている今、自分自身が神

に礼を尽くし、教えを基に節度ある人生を歩むのです。そこに、何一つ思い残すことのない大往生がかないます。

神魂が一人一人に実現してほしいと願われるのは、神の教えをしっかりと身に付け、各家の心の道に良い生き方を受け継げる人生を歩むことです。つまり、品格のある心のありようです。

人生により良いものを残すには、教えに生きる以外ありません。家族で教えに触れ、正しく関わる努力が、一人一人の運命を磨いていきます。互いを尊重し、支え合える家庭に、未永く仕合せが続く最良の生き方を残していくのです。

生涯を通して、人は一人では生きていきません。家族、縁者、また友人や知人など、数多くの出会いを生かしてこそ、自分自身の良さが発揮できます。

支え合う多くの人々との関係を深めるところに、人格は磨かれます。教えを身に付け、人柄の良い、誰とも調和できる品性に高まってこそ、一年一年開運へと近づいていくのです。